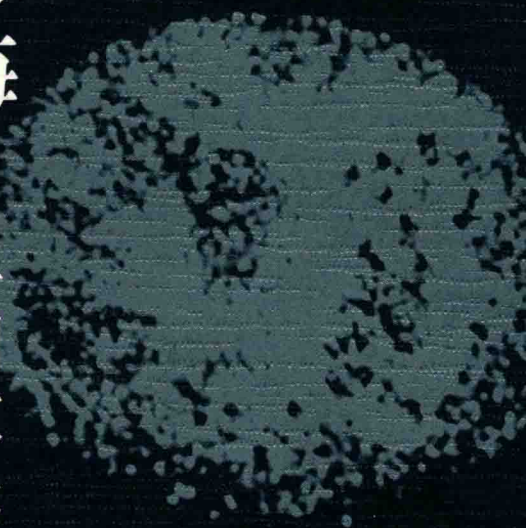


月の海

平岡敏夫





月の海

平岡敏夫

思潮社

月つきの海うみ

著者

平岡敏夫
ひらおかとしお

発行者

小田久郎

発行所

株式会社思潮社

〒一六二一〇八四二 東京都新宿区市谷砂土原町三一十五

電話〇三(三三六七)八一五三(営業・八一四一(編集)

FAX〇三(三三六七)八一四二

印刷所

三報社印刷株式会社

製本所

誠製本株式会社

発行日

二〇一四年八月三十一日

目次

月の海 10

勿来の関 12

夏の蒼空から 14

旅人算の彼方 18

東北の夏、敗戦の夏 22

*

母の日 26

再会 28

向こう通るは 30

二院物語 36

夾竹桃 38

授乳 40

竹 42

亀井大尉 44

プロペ通り 46

*

大菩薩峠 50

旅人 52

無頼の眠りたる墓 56

関八州の旅——日藝まで 60

佐幕派は 64

『虞美人草』のうた 68

京の夕暮れ 70

わが生のヒストリー 74

月の海
平岡敏夫

思潮社

月の海

平岡敏夫

目次

月の海 10

勿来の関 12

夏の蒼空から 14

旅人算の彼方 18

東北の夏、敗戦の夏 22

*

母の日 26

再会 28

向こう通るは 30

二院物語 36

夾竹桃 38

授乳 40

竹 42

亀井大尉 44

プロペ通り 46

*

大菩薩峠 50

旅人 52

無頼の眠りたる墓 56

関八州の旅——日藝まで 60

佐幕派は 64

『虞美人草』のうた 68

京の夕暮れ 70

わが生のヒストリー 74

裝幀 || 思潮社裝幀室

月の海

月の海

月の海

黒く輝く広い海

桃の花に乗った女の子が

両手で小枝の両側をしつかり握り、

唇を小さく噛んで、静かな海を流れて行きました。

月の海

黒く輝く広い海

柏の葉に乗った男の子が

両手で葉の両側をしつかり握み、

唇を固く閉じて、滑らかな海を流れて行きました。

次々と桃の花に乗った女の子が続きました。

次々と柏の葉に乗った男の子が続きました。

あの町、この町、流されて、日が暮れて、

あの子供、この子供、流されて、日が暮れて、

（お家がだんだん遠くなる、遠くなる、）

（今来たこの道、帰りゃんせ、帰りゃんせ、）*

子供らの魂を乗せた桃の舟、柏の舟は、次々と、

黒く煌めきながら、遙かな月の海を流れて行きました。

*野口雨情「あの町この町」より